



国府神社の本殿―高取町で



(住所) 高取町下土佐402  
 (祭神) 応神天皇(主神)、天兒屋根命、言代主神  
 (交通) 近鉄壺阪山駅から徒歩約10分 (電話) なし  
 (拝観) 境内自由  
 (駐車場) 高取町観光第1駐車場を利  
 用(無料)

## 国府神社

(高取町)



国府神社(高取町)の由緒は不詳ですが、説明板に「大和国の総社」だったと書かれています。総社とは特定地域の神社の祭神を集めて祭った社。古代の国司(現在の知事)は管内の神社を巡回するのが務めでしたが、省力化で平安時代後期、国司が政務を執る国府の

近くに総社を設けることが広まったそうです。

総社とする理由は、旧高市郡役所発行の「高市郡志料」が①国府跡と国府神社は共に高取町下土佐ナマコ山にある②かつて拜殿に掲げられ、数百年前に作られた扁額に「国府宮」の文字があった③役所の名称から転じ

たと思われる「松笠」(役所の馬司がなまった可能性)や「ミヤマ」(貴人の馬小屋の御厩)などの地名があった―と記すのが根拠です。平城京朱雀大路から南に延びる官道「下ッ道」沿いの立地も総社にふさわしい。

ただ、大和国の国府の所在地については諸説あり、高市郡志料も国府は平城遷都で現在の大阪府高市郡今国府町付近に移ったと記します。国府神社は明治期「八幡神社」で内務省に登録されましたが、氏子の運動で現名称に戻りました。氏子は昔、例祭の日に国府の文字が入った高張提灯を軒につるしたといい、本神社は地域の暮らしに溶け込んでいます。(奈良まほろばソムリエの会員 吉田英弘)

# 「大和国の総社」と伝わる

(吉田英弘)